

新たなお産方法 発祥の地に

湘南鎌倉 バースクリニク 開所式・内覧会開く

医療法人沖繩徳洲会は4月24日、湘南鎌倉バースクリニク（神奈川県、19床）の竣工開所式を開いた。徳洲会グループ関係者をはじめ180人が列席。同クリニクの完成を祝った。内覧会も同時開催し、約1000人が訪れた。同クリニクは湘南鎌倉総合病院（神奈川県）から機能分化・強化を図り、同院で実施してきた正常分娩（ぶんべん）のみに対応する。全室個室をはじめ妊婦さんがリラックスできる環境を整備し、自然分娩を追求するのが特徴だ。5月1日に開院した。



神奈川県議会や鎌倉市議会、地区の医師会や社会福祉協議会など多くの関係者が祝福

お産は自宅など居心地の良い場所で行われるべきです。ただ、急転直下、状態が変わることがあるので、いざという時のために専門資格者がいるところで行うこともまた大事です」と、これらを実現したのが徳洲会初の分娩専門施設となる同クリニクだと紹介した。出席者に協力を呼びかけ「自然なお産を追求していきたい」と意欲を見せた。

続いて、湘南鎌倉病院の塩野正喜院長は「病院でのお産は必要ですが、医療の介在が少ない場所で行うのが良い」と、以前から同院でアクティブバース（母体を中心に医

療的な介入を少なくした自立的なお産）を実践してきたことをアピール。そのひとつの形が同クリニクとして完成したことを喜んだ。最後に「かつて日本のお産は家族全員で支えました。妹がわが家で産まれた時、自分が障子の穴から見ていたのを記憶しています」と、同クリニクでは家族に見守られながらお産ができる点を強調した。

同クリニクの目下剛院長は「申し分のない施設」と感慨深げに会場を見渡し、改めて関係者に謝意を示した。目下院長は近年、感情と妊娠・分娩・産褥（さんじょく）とのメカニズムがきちんと説明できるよ



塩野院長は家族に見守られながらお産できる点を強調



福島・副理事長は「自然なお産を追求していきたい」



鎌倉市の出産や子育てに関する環境が充実することに喜ぶ松尾市長



「ぜひ注目、期待してください」と呼びかける目下院長



生理的なお産を追求し、安心も安全も底上げする意欲を見せる井上副院長

うになりつつあることを説明。「私たちは、その視点をもって取り組んでいきます」と語気を強め、「ぜひ注目、期待してください」と呼びかけた。



三角屋根がシンボルの湘南鎌倉バースクリニク

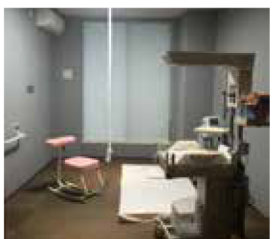
来賓を代表して祝辞を述べたのは松尾崇・鎌倉市長。松尾市長は鎌倉市の合計特殊出生率を現状の1・1から1・7に引き上げようと試みていることを明かし、「子どもをもちたいと思っている方の障害となっているものをひとつずつ取り除き、出産や子育てが行いやすい環境をつくっていくことが肝要」と、同クリニクの開設を歓迎するとともに期待を寄せた。

福島・副理事長が設計・監理会社、施工会社に感謝状を贈呈した後、神奈川県助産師会の岡本登美子副会長が乾杯の音頭を取った。

中締めは湘南鎌倉病院の井上裕美副院長が行つ



式の列席者に挨拶とクリニックをアピールする山地事務長（右）



湘南鎌倉病院同様、網につかり分娩する「大奥スタイル」も実施



テラスには暖炉を設置。温かな雰囲気演出する

た。井上副院長は20年以上前に数年間で100人以上の外国人の出産を経験し、その際、妊婦さんから「こんなお産をさせてほしい」と書かれた紙を渡されたエピソードを披露。その要望に対応していったことが「お産の改革のスタート」と振り返り、以来、ヒューマニゼーション（妊婦さんの心に寄り添ったお産）が根底にあると強調。

また、同クリニクには帝王切開を行う場所がないことを説明。その背景のひとつとして、安心・安全の実現のため、医療が介入するようになった結果、今や米国では3人に1人は帝王切開を実施。結局、妊産婦の死亡率が上昇したため、米国の産婦人科学会が警鐘を鳴らし、2年前からはお産の時間を曖昧（あいまい）にしたことを挙げた。

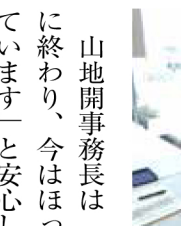
副院長は「生理的なお産を追求することで、安心と安全の両方を底上げしようというのが当クリニクの最大の狙いです。世界と同じ目標に向かうなかで、日本ではここが新たなお産方法の発祥の



お産が終わった後に提供される「お祝い膳」。家族も食べることが可能（要予約）

地になりたい」と締めくくった。

同時開催の内覧会には約1000人が参加。特別個室やレセプションルーム、一般個室、分娩室、陣痛室、新生児室、沐浴の練習室、エコー室などを開放するとともに、入院時の食事も披露した。参加者からは「食事が本当に素晴らしい」、「昼の分娩室もあってリラックスできますね」、「家族が付き添って出産できるスタイルはいいですね」といった声が聞かれた。



湘南鎌倉病院や関連の介護施設から多くの職員がサポート

山地開事務長は「無事に終わり、今はほっとしています」と安心した様子

子。「湘南鎌倉病院や関連の介護施設などの職員が100人ほど手伝ってくださいました。本当に感謝しています」と目を細めた。